

新任教授による

## 基礎と臨床のジョイントセミナー

令和3年2月3日（水）18時から1時間

※zoom開催 受講希望者は2月2日（火）までに、下記アドレスまでお問い合わせください。詳細をご連絡いたします。

## 今度の新しい教授はどんだけ凄いのか！？

学生から医師・歯科医師、シニア教官まで、全員ウエルカム  
ついでに、ラボ・医局も覗きにいこう！！

佐藤 荘教授（免疫アレルギー学分野）

### 疾患特異的マクロファージの機能的多様性 —線維症発症過程における免疫系と非免疫系の研究—

最近の免疫学のトピックの1つとして、M1・M2マクロファージが疾患特異的マクロファージの機能的多様性—線維症発症過程における免疫系と非免疫系の研究—挙げられる。しかし、私たちはマクロファージはM1・M2ではなく更に詳細なサブタイプに分かれると仮定して研究を行った。その結果、アレルギーに関わるサブタイプ (Sato et al, Nature Immunology 2010)、またメタボリックシンドロームに関与するサブタイプ (Sato et al, Nature 2013)、線維症の発症に関わる新規サブタイプ (Sato et al Nature 2017) とその細胞が誘導される際の非免疫系細胞についての研究 (Fukushima\*, Sato\* et al, Immunity 2020) を報告してきた。これらの研究から、現在私たちは病気ごとの“疾患特異的マクロファージ”が存在している可能性を考えており、これらを標的とした創薬は、その疾患特異性の高さから、副作用の少ない創薬応用につながることを期待される。



保田晋助教授（膠原病・リウマチ内科）

### リウマチ治療と研究の新展開

関節リウマチ (RA) の治療は、抗体製剤およびJAK阻害薬など分子標的薬の登場で長足の進歩を遂げたが、それでも寛解達成率は半数にとどまり、日和見感染の問題も解決していない。一方、腫瘍様の増殖をきたすRA滑膜の本態は線維芽様滑膜細胞 (FLS) にあり、ここに注目した研究が進んでいる。我々も、RA-FLS特有のシグナル分子を標的とした治療の可能性を探っている。セミナーでは、最近の治療ストラテジーの変遷や、RA-FLS研究の過程で出会った意外な発見などについて、楽しく紹介したい。



【連絡先】 医歯学総合研究科 システム発生・再生医学研究分野  
浅原弘嗣 （内線：5015）  
秘書アドレス：asahara-sec.syst@tmd.ac.jp